

石川県立美術館だより

平成17年2月1日発行 第256号

特集 茶道美術名品展

2月3日(木)~27日(日)会期中無休
午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)



黄天目 前田家伝来 南宋~元 13~14世紀

目次

茶道美術名品展	2	平成17年度友の会会員募集	6
万国博覧会の世紀 - 明治の工芸 -(後期).....	3	企画展示室、次回の展覧会	7
常設展示室 主な展示作品	3	2月の行事案内	7
展覧会回顧(彫刻家 清水良治展、マイ・ミュージアムをつくらう)...	4	所蔵品紹介、訂正とお詫び	8
講演会記録(香月泰男の世界 シベリア・シリーズ)...	5	ミュージアムショップ通信	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室（前田育徳会展示室）

特集

茶道美術名品展

2月3日(木)~27日(日)

前田家では藩祖利家以来、代々の藩主は茶の湯に深く心を寄せています。利家は初めは千利休に、利休没後は織田有楽に、二代利長は利休と高山右近に茶の湯を学び、利長自身も利休七哲の一人に数えられることもあります。三代利常は小堀遠州と親しく交わり、茶の湯に関しても両者の茶の湯問答の往復書簡（今回展示）が残されており、多大の影響が確認されます。四代光高も父とともに遠州に茶の湯を学んでいます。また金森宗和の子七之助に始まる代々を前田家が召し抱えたことから、加賀は宗和流発祥の地ともいわれています。さらに千家三代宗旦の子であり裏千家流祖の仙叟宗室は、茶道茶具奉行として、利常や五代綱紀に仕えました。以来茶の湯をはじめとする様々な芸道の盛んな地域として、その伝統は今日に続いています。

このような歴史を経て今日に伝わる名品のなかから、茶道具では、利休や織部の書状、春屋宗園の墨跡、さらには利常との深い交流をうかがわせる後水尾天皇の宸筆などをはじめ、「大名物 肩衝茶入 銘浅茅」、「玳皮蓋 天目（梅花天目）」、「茶壺 銘 春の日」など三十二点を展示します。

茶道の発展とともに名物製も珍重されましたが、前田家では茶の湯に精通していた利常が、寛永十四年（一六三七）、当時海外貿易の唯一の窓口であり、舶来品の宝庫であった長崎へ家臣を遣わせて、金に糸目をつけずに蒐集しました。このコレクションは優れていると同時に種類が多く貴重であり、名物製の宝庫といわれます。「花七宝入り石畳文様緞子（遠州緞子）」や「流水梅花文様緞子（織部緞子）」など茶の湯に関連する六点を展示します。

同時開催の「茶道美術名品展（第2展示室）」とあわせてご鑑賞いただき、茶の湯の精神を一考するひと時をお過ごし下さい。

今回は、当館開館の際に一括寄附された山川美術財団の寄付作品を中心にして、所蔵品と寄託品の中から約五〇点を選び、次の三つの時代に分けて紹介します。

室町時代を中心とした茶道具

この時代は、中国から輸入された唐物が特に流行した時期で、それらを部屋に飾って鑑賞する「唐物数寄」の茶の湯が行われました。やがて床の間形式で行われる書院茶へと移り、さらに「休宗純（一三九四〜一四八一）」に参禅した村田珠光（一四三三〜一五〇二）によって、草庵による侘び茶の風が形作られ、和物の茶陶も取り上げられるようになりました。その心は武野紹鷗（一五〇二〜一五五五）により深められます。ここでは南宋時代の「青磁袴腰香炉 龍泉窯」ほかを展示します。

桃山時代を中心とした茶道具

侘び茶は千利休（一五三三〜一九一）によって大成され、禅僧の墨跡を床に掛け、和物の道具が数多く用いられるようになります。利休没後はその子少庵（一五四六〜一六一四）へと受け継がれ、利休門下の古田織部（一五四四〜一六一五）により、侘び茶の作為性が推し進められました。ここでは利休作「竹時絵浪に亀図二重切花入」ほかを展示します。

江戸時代を中心とした茶道具

織部没後、時代の茶風に大きな影響を与えたのは小堀遠州（一五七九〜一六四七）です。織部の新生面を受け継ぎながら、中国へ好みの茶陶（古染付、祥瑞）を注文するなど、「綺麗さび」の茶風を創り出しました。また利休の孫宗旦（一五七八〜一六五八）や、金森宗和（一五八四〜一六五六）、本阿弥光悦（一五五八〜一六三七）らの活躍に加えて、諸藩の大名や武士、富裕な町人たちが茶の湯を愛好したことも、この時代の特徴といえるでしょう。こうして今日の茶道繁栄の礎が築かれていったのです。ここでは尾形光琳作「時給螺細萩図雪吹」ほかを展示します。

このほか山川コレクションの中から、香合の優品をコーナー展示いたします。



和蘭陀白雁香合 デルフト窯

常設展示室（第2展示室）

特集

茶道美術名品展

2月3日(木)~27日(日)

常設展示室 (第5展示室)

特集

万国博覧会の世紀

明治の工芸 (後期)

2月3日(木)~27日(日)



金銀象嵌唐草文香炉 山尾次吉

明治維新は政治的にも、社会的にも、また経済的にも激変をもたらし、旧来のパトロンを失った工芸職人たちがとって、自らの技術を新時代にどのように生かしてゆくかが死活問題でした。明治政府は国策として殖産興業の施策をはかり、そのために明治六年(一八七三)のウィーン万国博覧会への参加を皮切りに、世界各地で開かれる万国博覧会へ参加し、日本の工芸品を海外に販路を拓くため、積極的な指導を行いました。その一例が、時代にあつた図案の供給として作成された図案集「温知図録」であります。

石川県も、その方策にいち早く反応し、明治五年(一八七二)には金沢博覧会の開催、以後石川勸業場の設置、金沢銅器会社の設立、金沢工業高校の開校など藩政時代以来の伝統工芸の復興発展に努力するとともに、工芸家たちも、東京の図案研究会龍池会に就いて明治一三年(一八八〇)に創設したのが蓮池会です。今回はそこで作成され、長らく石川県工業試験場に保存されていましたが、現在当館に移管されている「蓮池会考案図式」の一部を展示し、「万国博覧会の世紀 明治の工芸」の時代に制作された作品とともに鑑賞いただきたいと思います。

主な展示作品

- 「陶磁」 九谷庄三作「色絵金彩花鳥文大香炉」
清水美山作「色絵金彩花詰蓋物」
春名繁春作「色絵羅漢図花瓶」
- 「漆工」 大垣昌訓作「蒔絵草花図絵替り椀」
清水加門作「蒔絵布袋図菓子器」
山尾次吉作「金銀象嵌唐草文香炉」
山田宗美作「鉄打出蓮図花瓶」
- 「金工」 米沢弘正作「金銀象嵌龍虎人物図燭台」
「蓮池会考案図式」
- 「図案」

前田育徳会展示室

特集 茶道美術名品展
干利休書状
富士図
大名物 肩衝茶入 銘浅茅

後水尾天皇

第1展示室

●色絵雉香炉
色絵雌雄香炉

野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

色絵鶴かるた文平鉢 古九谷
色絵鳳凰図平鉢 古九谷
特集 茶道美術名品展
虚谷希陵墨跡 無因
柿釉肩衝茶入 銘早蕨 吸坂窯
和蘭陀白雁香合 デルフト窯

虚谷希陵

第3・4展示室 (油彩画・水彩・彫塑)

油彩画
小石川植物園より
高原
安宅弥吉像
水彩
すずめ2羽
毛皮のコート
彫塑
或る男
歌姫
飛鳥哲雄
伊東 哲
中村研一
伊東 哲
南 政善
木村珪二
得能節朗

第5展示室 (工芸)

特集 万国博覧会の世紀 明治の工芸 (後期)
上段をご覧ください。

第6展示室 (日本画)

天女哀相
春を待つ
雪の裾野
観覧料
岡本秋石
滝川真人
原田太乙

一般 350円	個人	一般 280円	団体 (20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料	高校生以下は 無料		

常設展示室

主な展示作品

2月3日(木)~27日(日)

●=国宝 =重要文化財
=石川県指定文化財



雪の裾野 原田太乙



安宅弥吉像 中村研一

展覧会回顧

特別陳列 彫刻家 清水良治展



金沢美術工芸大学
名誉教授清水良治氏
の、彫刻家としての
歩みを振り返る展覧
会でした。昭和50年
代初頭の「ブランコ
と子供」にはじまり、

最新作の「蜘蛛の糸」まで新作展への出品作を中心に、彫刻32点、デッサン14点で構成したものでした。

清水氏は、愛知県出身で金沢美術工芸大学彫刻専攻を卒業しました。デッサンの虫ともいわれた師の柳原義達の影響から自らも納得のゆくまでデッサンを重ねその造形表現を深めてゆきました。

今回の特別陳列は、清水氏の代表作をほぼ年代を遡って、見渡すことのできる展示としました。清水氏の

作品には自己の内面を人体表現に投影する中で子どもをモチーフにした彫刻があります。その背景には戦争、わけてもベトナム戦争が頭にあり、戦争というもの、まず子どもが犠牲になるという考えに基づくものでした。昭和50年頃からスペインの文学に題材を求めるようになり、ドンキホーテに見る価値観の崩壊をテーマとし、風車が敵の大群に見えたり、不条理の現実ではない彼の理想、見果てぬ夢に惹かれた作品が表れ、清水氏の作風が多様化して現在に至っています。

また清水氏は母校の金沢美術工芸大学で53年から平成13年まで教鞭をとっていたこともあり、11月14日の講演会は、多くの教え子や金沢美術工芸大学の関係者たちでにぎわいました。

人体彫刻を一貫して追究した清水氏の作風の広がり、豊かな想像力と、手堅い造形性を、本展では堪能していただけたものと思っています。

(織田春樹 学芸主任)

大成功！「マイ・ミュージアムをつくろう」

11月に中学生が当館の所蔵品で展覧会を企画するという、学校・美術館連携の展覧会企画「マイ・ミュージアムをつくろう」が開催されました。七尾市立朝日中学校の3年生がこの新しい企画に挑戦し、学校と美術館が授業を通して一つの展覧会をつくるということにもかみが初めての展覧会でした。

9月中旬からの七尾市朝日中学校の授業にほとんど参加したわけですが、初めのうちは、学芸員という仕事について、県立美術館はどのようなところで、どのような所蔵品があるか、こちらから何らかを投げかける授業でした。回を重ねて、所蔵品の選定に入った頃から、どのようなテーマで自分たちの展覧

会をつくっていかうか、自分の気に入った作品はどのように作品解説が出来るか、生徒の皆さんは自分たちが展覧会をつくっていくという楽しさと、自分の選んだ作品を鑑賞する楽しさが感じられる場面がとても多く見受けられ、意欲的に活動していく姿が印象的でした。

鑑賞授業の当日、いままで学校でホームページや机上での選定作業を行ってきただけですが、展示室に初



学校での授業



作品を前に鑑賞授業



展覧会場の完成！



ジュニアガイドとして小学生に説明

めて足を踏み入れた時に起こった、生徒の皆さんの感動の声や表情は今でも忘れられません。展覧会開催中の土・日には、生徒達がジュニアガイドになり、作品解説を行ったわけですが、ホームページを見ていて作品を選んだ感想から、実際作品を目の前にしての感動・見どころを堂々と述べる中学生の姿に、来館した

鑑賞者から多くの拍手が送られていました。また、キッズプログラム鑑賞講座に参加していた小学生達も解説を聞きに訪れたのですが、自分たちよりも小さな鑑賞者を前に、クイズを取り入れながらの鑑賞者に合わせた楽しい作品解説に、中学生の工夫が見られました。解説後、「この作品はねー」「ここ

がきらきらと輝いてみえて素敵でしょう」と、小学生とお気に入りの作品を前にして話し合っていた姿が、とても素敵だったのは言うまでもありません。

これからも、たくさんの児童・生徒達に作品鑑賞に訪れてもらい、生涯に渡って美術館に足を運び、作品鑑賞を楽しんでいくきっかけとなるような企画を考えていきたいと思っています。

(西ゆう子 学芸主任)

講演会記録

香月泰男の世界 シベリア・シリーズ

講師：立花隆氏（ジャーナリスト）



『私のシベリヤ』(70年文藝春秋刊)は香月さんが書かれたものとされてきましたが、実は僕が東大の哲学科にいた時に山口の香月さんのアトリエに通ってまとめたものでした。

香月さんの没後十数年経った頃、初めて僕が書いたことを復刻版の第二版に書き入れさせてもらいました。それが機縁となって香月さんとの関係が知られ、没後20年の時に『NHKスペシャル立花隆のシベリア鎮魂歌』という追悼番組を作ることになりました。香月さんのシベリア体験を追体験するという発想から生まれたものです。シベリアの零下30度、40度という寒さは全く想像もできないものでした。その後、下関市立美術館でこの取材を交えて、シベリア・シリーズが一つ一つどういう意味を持っているのかということと4時間半くらい話しました。この講演を本にという話が出てたんですが、僕が香月さんの享年を越えた頃になって、ようやく今回『シベリア鎮魂歌 - 香月泰男の世界』(04年文藝春秋刊)として出すことができました。

香月さんの57点のシベリア・シリーズは普通の絵よりずっと大きいものを持っていると思います。それが没後30年を経てますます見えてきました。特徴は絵と言葉とが一体になっていることです。一つ一つに香月さんの解説が付いています。絵と言葉を一体のものとすることは日本の絵の伝統です。絵巻物がそうですし、中世の禅画には画賛という文章がくっついています。それが現代的な形で現れたのが劇画です。そういう長い伝統に連なって、香月さんはシベリア・シリーズを描いていくんです。ですから、あのシリーズ全体を全長63メートルの巨大な絵巻として見ることができます。

香月さんは山口県の三隅町で生まれ、ここで兵隊に取られて満州のハイラルで約2年間軍務につきます。ソ連との国境です。終戦の直前に本土決戦に備えるために日本に向けて発ち、その後安東という北朝鮮と満州の境目で、8月22日にソ連軍によって武装解除され、ここにしばらく留め置かれます。その間に満州にいた日本兵60万人をシベリア送りにするという決定が下されるわけです。奉天まで戻されて強制労働を課すために部隊の再編成が行われ、そしてシベリアに送られたのです。

香月さんはシベリアから帰国後すぐに『埋葬』という作品を描きます。戦友の埋葬というシベリア体験の中でも最も強烈な記憶ですが、明るく温かで現実のシベリアとは全然違っていました。これではだめだと、

ずっとシベリアを描かない時期が続くんです。再開するきっかけになったのは『左官』という絵です。香月さんは戦地に絵具箱を持っていきました。小さい頃に別れたお母さんに買ってもらったものです。ソ連兵に何度も取り上げられましたが、執拗に取り返して、一生使い続けるんです。シベリアでは材料が無いので、収容所内の煤を集めて機械油で溶いて黒の油絵具を作って描いていました。それで、あの時の絵具でないと本当のシベリア描けないと考えて、もう一度黒の絵具を作り直そうと、いろんな木炭で工夫するわけです。シベリア・シリーズのもっとも大きな特徴はこの黒にあります。それを『左官』に見ることができるんです。もう一つの特徴は「香月泰男の顔」と言われる独特の顔です。この顔をつかんだとき、自分の絵のスタイルというものができたという思いに駆られるわけです。それが59年でして、その背景には、ヨーロッパに旅行してヨーロッパ絵画の源流を訪ね歩いたということがあります。中世のゴシック絵画、特にキリスト像に大変影響を受けるわけです。

シベリアの体験を描いた作品に、初めて「シベリア・シリーズ」という言葉が用いられるのは、67年に『画集シベリヤ』を出してからのことでした。この時、これでシベリアは終わりにしようと思うわけです。ですから『私 マホルカ』という収容所生活を総括したような絵や、軍隊生活の始まりと終わり、『別』と『復員 タラップ』を描いています。でもどうも足りないということで、さらにいろんな絵を加えていくわけです。山口の錬兵場にガスマスクと空と雲を描いた『雲』、そして戦争体験の終わりは、今度の展示会のタイトルにもなっている『私の地球』。これは三隅の町を雲の上から見下ろしたという感じの絵です。シベリア、ホロンバイル、インパール、ガダルカナル、サンフランシスコという自分と日本の戦争体験を網羅するような5つの地名が書かれています。全体験を一枚の絵の中に押し込める、そういう描き方をしているんです。でもまだ不満でした。シベリア生活より長い、2年間居たハイラル時代が欠落しているんです。そして描いたのが『青の太陽』から始まる一連のハイラル時代のシリーズです。それでもまだ足りない、いろんなものを描き足していく過程がずっと続いていくわけです。

香月さんが亡くなられた時、アトリエには『渚 ナホトカ』が掛かっていました。海の部分、これ全部一人一人の顔なんです。写経の一文字一文字を書くように、顔で海を埋め尽くしたんです。シベリア体験という慟哭の思いが、この一枚の中に写経のように描かれています。香月さんの絵は三次元的なので、光や見る角度によって大きく違います。展示室で細かいところまで見ていただくと、大変な思いが込められている香月さんの絵の深い意味が分かってくると思います。

(「没後30年 香月泰男展 - 私のシベリア、そして私の地球 -」にちなんで、昨年10月3日に当館ホールで行われた講演内容を、当館の責任で要約したものです。)

平成17年度 友の会会員募集 3月2日(水)から受付開始!!
郵便でのお申し込みは郵便振替で

平成17年度友の会会員は次の要領で募集いたします。現会員の方で継続をご希望される場合でも、改めてお申し込み下さい。お申し込みがない場合はそのまま退会となります。
平成17年度より、当館コレクション展（従来の常設展）に無料で入場できるという特典が増えました。本文中の波線部分が変更されたところです。

募集定員 1,500名
会費 2,000円
受付期間 3月2日(水)より開始し、募集定員に達し次第締め切ります。

3月1日(火)・27日(日)～31日(木)は展示替えによる休館日ですのでご注意ください。

入会手続き
次のA、Bいずれかの方法でお願いいたします。
A 当館へご来館になり、受付へお申し出下さい。会員証はその場で発行します。

当館中央ロビー奥の図書閲覧室で受付いたします。入会申込書は閲覧室内にも常備してありますが、現会員の方は今回同封の入会申込書に所定事項をご記入の上、会費（現金）とともにお出し下さい。

受付時間は、休館日を除く午前9時30分から午後4時30分までです。

B 郵便振替用紙をご利用下さい。会員証は3月末から美術館だよりと共に郵送します。同封の郵便振替用紙に所定事項をご記入の上、最寄りの郵便局窓口へお出し下さい。

郵便振替口座 00700-7-46490
加入者名 石川県立美術館友の会
払込料金70円は申込者負担となります。
会員証は『美術館だより』と一緒に、3月末頃からお送りする予定です。
白色の図書閲覧室受付専用紙は必要ありませんので、郵送しないで下さい。
振替用紙の受領証は、会費送付の証明となるものですから、お手許で大切に保管しておいて下さい。
郵便局備え付けの振替用紙をご使用の場合は、通

信欄に下記事項をご記入下さい。
年齢 性別 会員の区別（継続・新規・元）職業
継続会員の方は現会員番号
その他
会員証の有効期間は平成17年4月1日～18年3月末日です。
会員は記名者本人のみとします。（ご家族の方との連名受付はいたしません。）
一度納入された会費は、お返しいたしません。
会員証紛失による再発行は受け付けません。

会員の特典

当館コレクション展に何度でも無料で入場
受付での会員証の提示により、会員本人のみ、年度内であれば何度でも無料で入場できます。
当館企画展入場券
この観覧券で当館の企画展のうち、いずれか1回無料で入場できます。
当館企画展の開会式にご招待
入館料の割引

受付での会員証提示により、同伴者2名まで当館主催展覧会（当館コレクション展、企画展）観覧料が団体料金なみに割引されます。

石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会でも同様の扱い（ただし同伴者割引なし）となります。

当館主催諸行事への参加
現地見学やバスツアー、ギャラリートーク、ミュージアム・コンサート等の諸行事に参加できます。

『石川県立美術館だより』の郵送
当館の最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより』（毎月1日発行）が毎月郵送されます。会員を対象とした行事のお知らせも掲載されています。

今回同封した入会申込書（参考見本）

①. 当館図書閲覧室受付専用です。

石川県立美術館友の会 入会申込書			
No. <small>この番号が振替口座</small>		継続会員・新規会員・元会員 <small>このいずれかに記入</small>	
住所		氏名	
職業		備考	

見本

※受付は3月2日からです。
※この入会申込書は図書閲覧室受付専用です。郵便でのお申し込みには郵便振替用紙をご使用下さい。

②. 郵便申込専用です。ご使用の場合には、必ず郵便局窓口へお出しください。

払込取扱票		郵便振替払込請求書兼受領証
00	00700-7-46490	0070007
石川県立美術館友の会	石川県立美術館友の会	石川県立美術館友の会
1. 継続会員 → 現在の会員番号 2. 年齢 () 才 3. 性別 男・女 4. 学生・会社員・公務員・団体職員・教員・自営・医療関係・美術関係・主婦・無職・その他 (該当するものうち、一つだけ○で囲む。)	見本	石川県立美術館友の会
おとこ (郵便番号)	おなまえ	おなまえ
おなまえ	おなまえ	おなまえ
おなまえ	おなまえ	おなまえ

企画展示室

第28回金城大学短期大学部美術学科卒業制作展

2月4日(金)~7日(月) 第7~9展示室

本学美術学科の卒業制作展は28回目となります。今年度はデザイン19点、マンガ・キャラクター20点、日本画14点、油画14点、染色・ファッション14点、陶芸・オブジェ2点の合計83点を出品予定です。また、各部門の研究生の作品22点が加わります。是非ともご高覧の上、厳しいご批評をいただければ幸いです。

入場無料

連絡先 白山市笠間町1200

金城大学短期大学部 美術学科 林 可耕

☎076-276-4411

第12回北陸国画グループ展(絵画・写真)

2月10日(木)~14日(月) 第7~9展示室

北陸国画グループ展は、国画会会員の柏健が中心となって呼びかけた北陸三県の国画会出品者を主体として構成されています。国画会は、毎年春に本展を東京都美術館において開催し、本年で第79回を迎える公募団体です。

今回のグループ展出品者は絵画部の安達博文、柏健、堤建二、寺田栄次郎、開光市、前田昌彦、大森啓、長谷川宏美、ヒラキムツミ、本田正史ら23名に、写真部の富岡省三、中川保雄、野村輝久、山田朱夏ら26名が参加し、力作を2、3点ずつ発表します。安井賞展、昭和会展などでの受賞者も多く、ハイレベルな作品が期待されます。フリースペース展示では山本順子の作品をまとめてご覧いただけます。是非ともご高覧下さい。

入場無料

連絡先 能美市緑ヶ丘11-5 横江昌人

☎0761-51-4150

金沢大学教育学部美術教室卒業・修了制作展

2月17日(木)~20日(日) 第7展示室

絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術科教育の各分野の学部、大学院生による平成16年度卒業・修了作品及び論文等パネルを展示します。これらは、教員のほか、多様な分野へ進出を目指す学生達が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、かつ創造的に研究し制作して完成させたものです。展示点数は数十点、是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言

をお願いします。

入場無料

連絡先 金沢市角間町4

金沢大学教育学部美術教室 松浦 昇

☎076-264-5586

第27回日創展&新院展選抜金沢展

2月17日(木)~20日(日) 第8・9展示室

日創展は会長丹波俊夫(新院展副会長)の衝立作品、理事長三宅厚史、事務局長今村文男の力作をはじめ、石川、富山、福井、岩手から幅広い年齢層の日本画約60点を、新院展(東京展)から会長石井宝山の作品をはじめ約40点を選抜して展示します。

主な出品者

北出朝之 保科誠 作田保夫 柴田輝枝

南好乃 中村勝代 松尾功一朗 福井淳一

村中博文 伊藤夏子

入場無料

連絡先 金沢市窪1-223 丹羽俊夫

☎076-244-5916

第14回北國水墨画展

2月23日(水)~27日(日) 第7~9展示室

石川県内の水墨画愛好団体を網羅した統一展です。近年、愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査し、入選、入賞作に加えて委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力伝えるものです。

入場料 一般・大・高生 500円(400円)

中学生以下無料 ()内は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により

団体料金

連絡先 金沢市香林坊2-5-1 北國新聞社事業局

北國水墨画展事務局

☎076-260-3581

次回の展覧会

特集 花鳥画の世界 (前田育徳会・第2展示室)

特集 宮本三郎と鴨居玲 (第3展示室)

3月2日(水)~26日(土)

2月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
2/5(土)	キッズ鑑賞講座	万国博覧会の世紀-明治の工芸- (西ゆう子 学芸主任) 小学生対象の講座です。常設展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室 常設展示室
2/6(日)	月例映画会	髹漆 -増村益城のわざ- (30分) 宮廷衣装を守る人びと -有職- 喜多川平朗・深見重助 (25分)	ホール
2/12(土)	美術講座	茶道と工芸 名物裂を読む (寺川和子 学芸主任)	講義室
2/13(日)	ビデオ鑑賞会	国宝14 伴大納言絵巻 (28分)	ホール
2/19(土)	ギャラリートーク	万国博覧会の世紀-明治の工芸- (末吉守人 学芸第一課担当課長) 展示室内で行われるため、常設展示の入場券が必要です。	常設展示室
2/20(日)	月例映画会	飛騨の美を継ぐ人たち -春慶塗- (25分) あしたをはぐくむ 鍛金 関谷四郎 (30分)	ホール
2/26(土)	美術講座	ヴェラスケス 人と芸術 (織田春樹 学芸主任)	講義室
2/27(日)	ビデオ鑑賞会	国宝15 信貴山縁起絵巻・鳥獣人物戯画 (33分)	ホール

2月の全館休館日は1日(火)・2日(水)・28日(月)です。

左手を腰にそえ、右足に重心をかけた静かなる動きを感じさせる男性像です。頭部はやや左を向き、遠くを見渡しているかのようで微笑ともとれる表情になっています。作者の初期の作で第3回新文展特選受賞作です。

作者は堅実な写実彫刻の作風を終始一貫、貫いた人でした。初期には、この作品に見られるように戦時下の世相を反映した痩身に動きの少ない像を多く作りましたが、後期になるとしだいに激しい動きを伴った作風に変化していきます。感情や行動に伴う激しい動きが作者の重要課題になっていったようです。

木村珪二は師の吉田三郎の影響もあり、一貫して男性像を制作しました。しかしその作品は世相を象徴したような社会性をおびたものや、青年の若々しい姿を追求し続けたもの、作者自らの心の中にある葛藤や、思想を具象表現しようとしたものなど年代とともに変化しています。

作者は金沢市の本多町に生まれました。旧姓を友田といい、父は陶芸家・日本画家として知られた友田安清で、やがて父の実家の木村家を継ぎ、昭和2年東京美術学校彫刻科を卒業し、郷里の先人であった吉田三郎に師事しました。

大正15年第7回帝展に初入選し、以降新文展・日展に出品しました。昭和13・14年新文展で特選を受賞し、白日展でも昭和2年と、4年に白日賞、37年中沢賞受賞。27年より東京教育大学で後進の指導にあたり、日展の評議員をつとめました。

第4展示室で展示中



あ おとこ
或る男 ブロンズ

きむらけいじ
木村珪二 明治37年～昭和46年(1904～71)

昭和14年(1939)第3回新文展特選
高178.0 幅73.0 奥行42.0(cm)

ミュージアムショップ通信

先月開催されました、企画展「きものの美 新春を寿ぐ」は、新春にふさわしい展覧会でした。一つひとつの作品が光り輝いて見え、華やいた気分になることができました。

さて、今月は手提バックを紹介しましょう。以前、美術館だより第238号で紹介した手提バックの新色(グレー)ができました。国宝 色絵雉香炉のシルエットがデザインされたものと、石川県立美術館の「石」をデザイン化したものの2種類あり、モダンな感じに仕上がっています。布製で軽く、容量がありますので、ちょっとした旅行や買い物などに便利です。ショップにお立ち寄りの際は是非、ご利用ください。



手提バック(2,000円)

訂正とお詫び

本誌前号(第255号)2、3ページに誤りがありました。ここに訂正し、ご迷惑をおかけした関係各位に深くお詫び申し上げます。

2ページ上段、写真右下所蔵館名

① 前田育徳会蔵 ② 彦根城博物館蔵

3ページ上段、展覧会会期

① 2月3日(木)～3月27日(日)後期

② 2月3日(木)～2月27日(日)後期

休館日：2月1日(火)・2日(水)・28日(月)

石川県立美術館だより 第256号

2005年2月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>